痛みが難治化しやすい慢性疼痛患者の特徴に関する検討

田中　なつみ*
聖隷クリストファー大学

【目的】

慢性疼痛とは,「3 カ月以上持続するあるいは繰り返す痛み」を指し，侵害受容性，神経障害性，心理社会的な要因が複雑に絡み合い，複雑な病態を呈するといわれている．慢性疼痛患者の治療の実態について報告した先行研究によると，治療によって痛みの改善が得られたのは約 6 割で，残りの約 4 割はその効果が得られず，慢性疼痛患者の約半数が途中で治療を中止している．このような患者は複数の医療機関を繰り返し受診する，ドクターショッピングを繰り返すことで病態が複雑化し,痛みが難治化しやすくなると考えられる．そこで本研究の目的は，ペインクリニックに通院する慢性疼痛患者に対して多面的評価を実施し，痛みが難治化しやすい患者の特徴を明らかにすることとした．

【方法】

対象は 2022 年 8 月から 2023 年 3 月に寺田痛みのクリニックに来院した慢性疼痛患者のうち，理学療法が処方された者とし，対象者の基本情報ならびに痛みに関する理学療法評価の結果をカルテから収集した．調査期間中に研究の同意を得られた 105 例を，理学療法継続群，理学療法終了群，ドロップアウト群の 3 群に分け，各評価結果について一元配置分散分析を用いて比較を行った．

【結果】

各群の基本情報ならびに痛みの評価結果を表 1 に示す.継続群,終了群と比較して，ドロップアウト群では PCS の拡大視において有意に高値を示した．また有意差は認めないものの，ドロップアウト群では不安，抑うつ，TSK，PDAS の項目においてカットオフ値を上回り，PSEQ ではカットオフ値を下回っていた．

表 1　基本情報ならびに痛みの評価結果

	継続	終了	ドロップアウト
年齢	55.2±15.0	49.8±17.2	47.3±11.9
ドクターショッピング回数	1.8±1.9	1.6±1.5	3.1±2.8
BMI	27.1±4.5	27.1±5.5	25.3±3.6
罹患期間（月）	71.2±97.1	33.8±44.6	43.9±79.8
Pain DETECT(点)	8.9±5.8	6.5±4.0	10.3±6.7
PCS 反芻(点)	12.9±5.0	16.3±3.5*	15.6±3.9
PCS 無力感(点)	7.5±5.2	10.2±5.8	9.5±5.4
PCS 拡大視(点)	4.9±3.2	4.0±2.9	7.4±2.3*#
PCS 合計(点)	24.1±12.9	30.5±10.4	32.5±10.4
HADS 不安(点)	6.3±4.4	6.8±4.8	7.7±4.5
HADS 抑うつ(点)	7.0±4.0	6.1±3.8	9.2±3.5
HADS 合計(点)	12.6±7.8	12.9±7.6	16.9±7.1
TSK（点）	38.9±6.9	39.1±8.5	42.3±8.0
PSEQ（点）	35.7±12.4	38.4±10.7	29.8±15.8
PDAS(点)	12.4±10.3	9.7±7.5	16.9±11.4

* 理学療法継続群との有意差(p<0.05)
\# 理学療法終了群との有意差(p<0.05)

【考察】

今回の結果，理学療法開始時に拡大視，不安，抑うつ，運動恐怖，自己効力感の低下，ADL の低下が認められる患者は治療を中断する可能性が高いことが示唆された．

今回の結果は痛みが難治化しやすい患者の特徴の一端を示すデータになり得ると考えられ，今後も継続してデータを蓄積し，ペインクリニックに通院する慢性疼痛患者の実態を明らかにしていきたい．

倫理審査	■承認番号（　22-005-02　）□該当しない
利益相反	■なし　　□あり（　　）